対応状況報告書

大 学 名:東京医科歯科大学

評価実施年度: 令和3年度 報告年度: 令和6年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○医歯学総合研究科生命理工医療科学専攻及び東京医科歯科大学・
	チリ大学国際連携医学系専攻において、実入学者数が入学定員を大
	幅に下回っている。
対応状況	・医歯学総合研究科生命理工医療科学専攻における入学定員充足率
	は、現時点で改善された状況にあると判断していない。(令和2年度
	から令和6年度までの入学定員充足率の平均は0.58倍(0.7倍未
	満)である。ただし、令和2年度及び令和3年度の入学者が各9名
	であったのに対し、令和4年度から令和6年度の入学者は15名、15
	名、25 名と大幅な改善傾向にある(入学定員 25 名))。
	同専攻では、入学定員充足率の向上に向けて、生体材料工学研究
	所及び難治疾患研究所によるオープンキャンパスを実施して大学院
	入学希望者へ分野の紹介を行ったほか、口腔からの全身疾患予防に
	繋がる高度専門知識を有した歯科衛生士・歯科技工士の確保及びそ
	の指導ができる人材の育成が社会的に重要な課題であることに鑑み
	て、博士(口腔保健学)の学位を令和5年度に新設した。上記の大
	幅な入学者の増加は、主にこの学位新設によるものであり、今後も
	改善傾向が続くものと考えられる。
	・東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻における定員充
	足率は、現時点で改善された状況にあると判断していない。(令和4
	年度から令和6年度において、新たに入学した者がいないため、令
	和2年度から令和6年度までの入学定員の充足率の平均は0.07倍
	(0.7 倍未満) である。)
	同専攻では、入学定員充足率の向上に向けて、プログラム改善 WG
	の実施や将来の学生の入学を促すことを目的としたプロモーション
	ビデオの作成をしたり、チリ大学とのジョイントシンポジウムを令
	和4年11月に開催して両大学の将来的な連携強化を図った。
	なお、同専攻では、今後のプログラムの在り方の見直しを進めて

いる。